

合志市子ども・子育て会議【令和8年度 第1回 会議録】

1会議の名称、開催日時及び開催場所

- ・名称 令和8年度 第1回 合志市子ども・子育て会議
- ・日時 令和8年8月19日(水) 午前9時30分～午後0時20分
- ・場所 合志市総合センター「ヴィーブル」1階 こども部会議室

2会議の議題

- (1)子ども・子育て会議について
- (2)子ども・子育て支援事業計画(第3期)令和7年度事業実績の振り返りについて
- (3)児童館の活動報告について
- (4)認可保育施設に係る利用定員について
- (5)その他

3会議の公開、非公開又は一部非公開の別

- ・公開

4出席委員及び欠席委員の氏名

[出席委員]

松島 麻子 委員	福嶋 義信 委員	中島 聡美 委員	川畑 愛子 委員
後藤 真由美 委員	田島 真理 委員	吉崎 祥太郎 委員	田中 秀和 委員
永野 典詞 委員	坂本 みゆき 委員	法上 史 委員	佐藤 淑恵 委員
鈴木 裕子 委員	関 祐子 委員	藤井 勝洋 委員	

(15名)

[欠席委員] 加藤達也 委員、大山寛 委員、布野里奈 委員(3名)

[事務局]

荒木義行 市長	佐藤美和 こども部長	小畑英之 こども未来課長
末永舞 こども家庭課長	境真奈美 こども政策班長	仁田真由美 こども支援班長
吉山和宏 保育班長	玉島茉莉奈 こども政策班主幹	林 保育班主幹
吉谷花央梨 児童厚生員		

[説明者] 西合志中央保育園(3名)、西合志東保育園(2名)

5傍聴者 4名

6審議内容(要旨)

(1) 開会 小畑こども未来課長

(2) 委嘱状交付 (委員全員 任期:令和10年3月31日まで)

(3) あいさつ 荒木義行 市長

(4) 自己紹介

(5) 会長及び副会長の選任

会長 永野典詞 委員 (九州ルーテル学院大学人文学科 教授)

副会長 坂本みゆき 委員 (元市職員、保健師)

(6) 議題

①子ども・子育て会議について

事務局より、資料に基づき説明

【質疑・ご意見等】

なし

②子ども・子育て支援事業計画(第3期)令和7年度事業実績の振り返りについて

事務局より、資料に基づき説明

【質疑・ご意見等】

委 員:市で人口推計を実施しているとのことだが、「量の見込みと確保方策」の推計児童数も変更があるのか。

事務局:推計児童数の変更が予想される。

令和9年の計画中間見直しの時期に反映させる予定。

委 員:子育て援助活動支援事業(ファミリーサポートセンター事業)で、利用会員数と協力会員数の推移を求める。

事務局:令和5年度 利用会員数 1,171人 協力会員数 412人

令和6年度 利用会員数 1,155人 協力会員数 426人

令和7年度 利用会員数 1,158人 協力会員数 460人

委 員:ファミリーサポートの協力会員であるが、依頼は少ない。

活動している協力会員の実人数の推移を見ることも分析に繋がるのではないかと考える。実際の活動が同じ協力会員に限定されていないか。

事務局：協力会員の实活動数と延べ活動数のデータが手元にないため、委託先に調査し、あらためて委員全員へ報告する。

③児童館の活動報告について

事務局より、資料に基づき説明

【質疑・ご意見等】

委員：児童館の母親クラブ等の地域組織の利用者登録数を求める。

事務局：現在の利用登録は東児童館10組、泉ヶ丘児童館20組、西児童館36組
年間の途中登録や、就園による退会などがあるため変動はあるが、減少傾向にある。

委員：事業ごとに統計がとられているが、支援の活用の多様化を考えるうえで、子育て世帯がどのように事業を活用しているかをまとめて考える必要がある。例えば、児童館を利用している人は、つどいの広場も活用しており、ファミリーサポートも有効に活用しているなど、各事業の数字を個々で追うだけでは、制度の活用が有効かどうかは測れないと考える。

事務局：今後、制度の活用実績を測るうえで、検証の方法を検討する。

④認可保育施設に係る利用定員について

事務局より、主旨説明

※特定教育・保育施設および特定地域型保育事業の利用定員については、本会議における意見聴取が必要であるため、議題とする。

各保育園長より利用定員変更の申し出について説明

【質疑・ご意見等】

委員：現在この地域は、人口推計が不透明な地域である。人口増加の町と言われる一方、就学前の人口は伸び悩んでいる。
また、市内全24園で定員割れや保育士不足が深刻な状況。
加えて、交通渋滞の悪化により、交通の便が良い場所に立地している園に入園希望が集中している。
こどもたちの多様性を認めた保育を実現していくためには、150人を超える定員の園は、大変な環境である。

待機児童解消は、当然大事なミッションであるため、今回利用定員を減数になったとしても、需要が増える場合は、定員を増やしていくという柔軟な対応が必要だと考える。

委員：定員の減数を希望する理由の説明を聞いて、「こどもたちのための環境整備」が主たる目的かと思っていたら、「経営不振」の話が前面にあり、何を課題の本質として検討するべきなのか困惑した。

定員を増やす際には、多額の税金を投入した施設である以上、減員に際しても相応の理由が必要であると考ええる。

本来、「こどもまんなか社会」を念頭において、一番大事に育ててくれているのは保育園である。単なる経営不振が理由ではなく、保育士不足という課題への対応や保育の質維持という「根幹となる理由」を重視してほしい。

委員：認可外保育所への補助金はなく、自費で運営している。定員30人のうち、今年度のスタート時点は10人おらず、現在は12人が通園している。これは、待機児童が0になったことにより、認可外に通園するこどもたちが減ったという理由も含まれる。

また、半導体関連企業関係者の転入や住宅開発で、入園者が増加するのではないかと期待していたが、海外からの転入家族は入所にはつながらなかった印象がある。市内アクセスの課題により、熊本市内の保育施設を利用していると聞いている。人口推計でこどもが多くなったとしても通園するかは疑問である。

委員：今回の定員の減数希望の申し出には、保育士不足が大きく影響している。保育を充実させるためにも、人材確保が必要であると考ええる。
人材確保に向けた具体的なマネジメント方針、および対象2園における運営ポリシーの提示を求める。

—回答—

説明者①：これまでの保育士確保策を紹介

説明者②：これまでの保育士確保策を紹介

資格を持っている職員の専門性を活かしたい

委員：保育士不足が叫ばれる中でも、着実に人材が集まる園との差異や要因に関する深い考察が必要である。

近年の動向として、現在の学生や保育士が求めるものは、給与水準のみならず、「働きやすさ」が重要視される。保育士自身が「心理的安全性」や「安

心感」を担保できる環境づくりが重要と考える。時代の変化に即した本質的な人材マネジメントの確立が必要である。

⑤その他について

事務局より、資料に基づき説明

【質疑・ご意見等】

委 員：令和7年度実績の評価や点検を行い、こども施策の検討を行う会議だと認識しているが、事務局を見ると教育委員会がない。委員に校長会からの選出があるが、本日は欠席されている。こども施策の検討であるため、教育委員会の職員の出席を求めている。

事務局：検討する。

委 員：こどもたちの意見聴取でアンケートやワークショップは、どんな時に実施しているのか。

事務局：「こどもまんなか社会」に向けたこどもの意見聴取については、全庁的に周知を図り、各課においても事業を推進する際に、こどもたちからのアンケートやワークショップを開催している。
また、イベントの際にも積極的にこどもたちへアンケートを実施している。

(7) 閉会